

順天堂医院ニュース 2012 NO.40

はしか(麻しん)撲滅への取り組み

世界保健機構上の発表によれば、日本は麻しんの非清浄国で未だ患者が発生しています。2007年に、厚生労働省は「麻しん排除宣言」を出し、「2012年までに麻しん(いわゆる“はしか”)を国内から排除する5か年計画を世界に公表しました。今年はその最終年にあたります。麻しんは、伝染力が非常に強く(1人から15人へうつします)、重い脳炎あきゅうせいこうかせいぜんのうえん(亜急性硬化性全脳炎)を合併症するため、死亡率が高く危険な伝染病です。江戸時代から「疱瘡(ほうそう)は見目定め、麻疹(はしか)は命定め」と言われるように、多くの小児の命を奪うので、大人・子供の区別なく流行しないように取り組まなければなりません。しかし、このような認識が一般国民に希薄なために、「一度かかれば一生大丈夫」といった“一か八かの大勝負”にでたり、ワクチンという予防手段が徹底されてきませんでした。さらに、麻しんワクチンは1回だけでは十分免疫がつかない人が数パーセント残りますので、2回の接種が必須となります。また我が国にはワクチンに対する心理的な拒否反応があるので、最近改訂されるまで予防接種法では、2回目の学童接種についても記載がありませんでした。

順天堂は職員が麻しんを媒介することがないように、職員への抗体検査と予防接種を長く取り組んできました。医学生や看護学生については実習開始前までにワクチン接種を完了しています。新任者には、入職までのワクチン接種を奨励していますし、現在就労中の職員についても母子医育支援センター、手術室、集中治療室、救急外来、小児系外来、産科婦人科外来などハイリスク部署から順次対応を開始しております。



感染対策室 室長 堀 賢
感染管理認定看護師 小松崎 直美

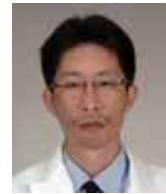
骨髄バンクドナーの骨髄採取

血液内科 濱埜 康晴

当院は非血縁者間骨髄採取認定施設であり、2004年から骨髄バンクドナーの方の骨髄採取を行っております。骨髄バンクドナーの方は、採取前日に入院し、翌日手術室にて骨髄採取を行いその2日後には退院となります。採取させていただいた骨髄液は、その日のうちに移植患者さんの待つ病院に大切に運ばれ点滴ルートから体の中に入っていきます。逆に当院で非血縁者間骨髄移植を受けられる患者さんは、他の認定施設で採取された骨髄液をいただいて移植されます。2012年3月現在、骨髄バンクのドナー登録数は約40万人を超え、現在までに全国で約14000件の非血縁者間骨髄移植が行われています。このように非血縁者間骨髄移植は、ドナーの方、骨髄移植推進財団の方々、採取施設・移植施設のスタッフと様々な方々の連携・協力を得て行われており、当科では今後も採取・移植の両面で全国の移植医療に貢献していく所存です。



教授
小松 則夫



准教授
濱埜 康晴

新生児の脳波モニタリング

小児科・思春期科 奥村 彰久

新生児、特に在胎週数が短い早産児は、様々な理由で脳に障害を受けることがあります。超音波や採血では、新生児の脳に障害が起きているかどうかを十分に知ることはできません。このような場合に脳波はとても役に立ちます。また、新生児発作とよばれる大脳から発生する発作は、見た目の症状がないことが多く脳波を記録しないと分かりません。このように、新生児の患者さんが脳に障害を持たずに退院していただくために、脳波は大変役立っています。当院では、最新の装置を用いて、新生児の脳波の長時間モニタリングを行っています。aEEG という新しい脳波評価法も取り入れており、新生児の脳を守って健全な発達を促す医療に力を注いでいます。

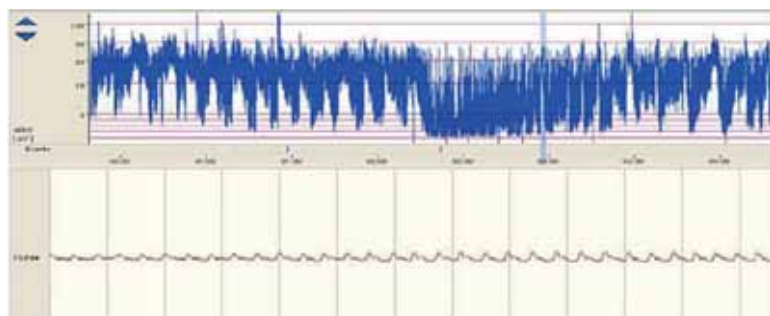


教授
清水 俊明



准教授
奥村 彰久

脳波モニタリング装置



脳波モニタリング装置で記録した新生児発作

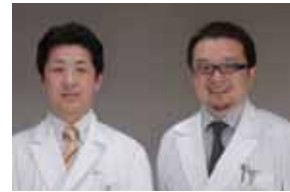
てんかん外科治療(迷走神経刺激)

脳神経外科 中島 円

昨今、「てんかん」という病気をしっかりと理解する必要に直面しております。そこで、てんかんに対する新しい治療法をご紹介します。今まで抗てんかん薬に抵抗性で、てんかん外科治療も適応外の患者さんには有効な治療法がありませんでした。そのような患者さんに、迷走神経刺激療法が注目されています。本邦では 2010 年7月に保険適応となり、治療を受けている方が増えております。本治療は頸部迷走神経を間欠的に刺激することで、てんかん発作を半減させるものです。また、従来のてんかん手術と異なり、数日の入院で施行可能です。当院では、日本での承認当初より本治療法に取り組んで参りました。詳細は、脳神経外科外来でご相談ください。



教授
新井 一



准教授
菅野 秀宣
助教
中島 円



最前線の内視鏡治療：大腸 ESD

消化器内科 坂本 直人

大腸ポリープは腫瘍と非腫瘍に分けられ、腫瘍の中で悪性のものをがんと呼びます。腫瘍の多くは良性であっても将来的にがん化する可能性があるため切除の対象となります。内視鏡治療の対象となるのは前がん病変(良性腫瘍)と一部の早期がんですが、大きな平坦型腫瘍等を従来の内視鏡治療で完全切除するのは困難であったため、開腹手術を行うことが少なくありませんでした。当院では大腸においても内視鏡的に電気メスを用いた切除法(内視鏡的粘膜下層剥離術:ESD)を高度先進医療としていち早く導入してきました。ESDにより大きさや形態に関わらず、内視鏡的完全切除が可能になったことで患者さんの肉体的な負担を軽減することが可能になりました。これまで関連病院のみならず多くの施設から患者さんをご紹介していただきましたが、このたび2012年4月に大腸ESDが保険収載されたことで患者さんの経済的負担も軽減されるため、今後さらに貢献できるものと思っております。



教授
渡辺 純夫



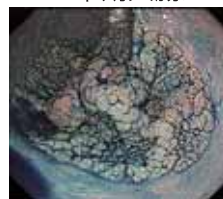
准教授
坂本 直人



准教授
長田 太郎

早期大腸がん

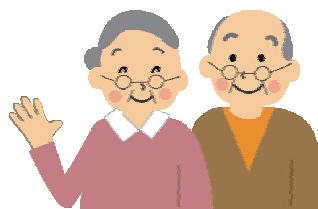
ESDにより完全切除



薬剤部ニュース

認知症について

誰でも年齢を重ねることで物忘れが起こりやすくなります。認知症は、初めのうち物忘れとの区別がつきにくい病気です。大きな違いとして、加齢による物忘れは出来事の一部を忘れるのに対し、認知症は出来事の全てを忘れてしまうという点です。例えば、食べた物を忘れるのではなく、食べたこと自体を忘れてしまい食事を何度も催促するといった症状です。主な症状として、同じことを何度も言ったり聞いたりする、しまい忘れ、置き忘れが目立つ、寒くても薄着のまま外に出る、時間・日付・今どこにいるのか?などがわからなくなる等があります。認知症をきたす疾患の中でもっとも多いのが、アルツハイマー型認知症です。アルツハイマー型認知症は、脳が萎縮してしまう病気です。誰でも加齢とともに脳は萎縮しますが、アルツハイマー型認知症の人は、より速いスピードで脳が萎縮していきます。現在、認知症を完全に治す方法はありませんが、症状の進行を遅らせる薬があります。治療を行うことによって、充実した健やかな生活を送ることができるのです。



臨床検査部ニュース

免疫血清検査について

免疫学的（抗原と抗体）の反応を原理として、肝炎ウイルス（B型肝炎・C型肝炎）やヒト免疫不全ウイルス（HIV）などの感染症検査、がんの補助診断や経過観察に用いられる腫瘍マーカー検査（CEA・AFP・CA19-9など）、ホルモン検査（甲状腺ホルモン、女性ホルモンなど）を行っています。その他、膠原病の診断に重要な自己抗体の検査や、免疫抑制剤（タクロリムス・シクロスポリン）の血中薬物濃度検査を行っています。院内で実施している検査項目や基準値は、当院の臨床検査部ホームページに掲載しております。

当院の臨床検査部ホームページ

http://www.juntendo.ac.jp/hospital/support/rinsyo_kensabu/index.html



栄養部ニュース

塩麴（しおこうじ）

塩麴は、麴に塩と水を加えて調味料として使いやすくしたものです。万能調味料といわれるほど色々な使い道があり、最近話題になっています。つけ焼きや和え物、ドレッシングなどにも使えます。

塩麴の効能の一つに、食材の旨味を上げる効果があります。これは麴に含まれる酵素が、食材のデンプンやたんぱく質を分解して糖やアミノ酸などを作り出し、甘味や旨味を増してくれるからです。酵素の分解力には食材を柔らかくする働きもあり、硬い部位を使った肉料理などに使うと効果的です。



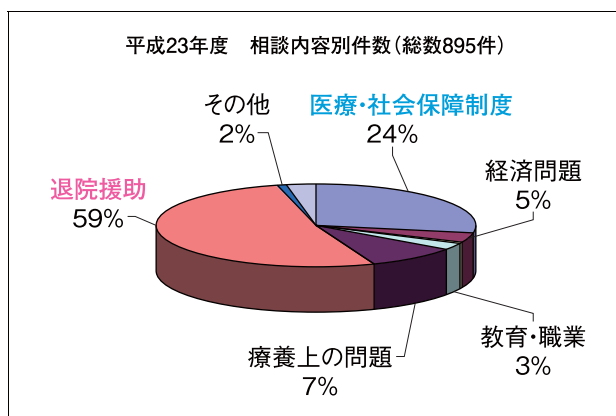
多くの効能がある塩麴ですが、食べ過ぎは禁物です。塩麴は麴に対して3割程度の塩を入れて作るのが一般的で、市販品は塩分10%~15%のものが多いようです。塩分量を把握して適量を楽しみましょう。高血圧や心臓病、腎臓病の方など塩分を控える必要のある方は特に気をつけてください。



管理栄養士 波多江千恵

医療福祉相談室ニュース

☆平成23年度に当室で受けた相談内容の割合は、次のとおりです。



昨年度、当室で新しく受けた相談件数は895件でした。

一番多い相談内容は、**退院援助**～当院での入院治療を終えられた患者さんの退院先についてのご相談～で、昨年度は約6割を占めました。

突然の病気やケガ、あるいは慢性疾患などの症状によって、当院での治療の後にはご自宅へ退院するのではなく、転院して入院加療を継続した方が望ましいと医師から勧められた場合などに、リハビリテーション病院や療養型病院を探すお手伝いをしています。

つぎに多くお受けしたのは、**医療・社会保障制度**～医療費の公費負担制度や社会福祉制度の利用についてのご相談～ですが、この2つの相談内容で全体の8割を占める結果となりました。

★4名のソーシャルワーカーで患者さん・ご家族の方からのご相談をお受けしております。お手数ですがご相談をご希望の際には**事前にお電話でご予約(03-5802-1207)**いただければ幸いです。

看護部ニュース

看護管理者・教育担当者のための

「ナースの品格 接遇・マナー指導ツール集」の紹介

このたび、当院看護部で「ナースの品格 接遇・マナー指導ツール集(CD-ROM付)」を発刊いたしました。1873年(明治6年)初代看護取締役(看護師長)杉本かね以来、学是である「仁」を大切に看護師の接遇・マナーを培ってきました。その歴史、伝統・実績を受け継ぎ、今日まで看護師が実践してきた接遇・マナーから、医療安全や感染対策に関連する話題をまとめました。

看護師のみならず、一般の方々にも読んでいただきたいと思えます。



「ナースの品格」

看護部 井上 富士子

順天堂医院の今昔

順天堂医院のはじまり

湯島のこの地に順天堂醫院が始まったのは明治8年4月。それまでは明治6年2月に開院した病院が下谷練堀町にあった。

その病院は500坪の土地に50部屋の2階建ての病院であったが、たちまち満床になり増築に増築を重ねていた。慢性的な病室の不足に加え、1日に200人を超える外来患者のため新病院を建てる必要に迫られていた。そこで、湯島に江戸時代「火消し屋敷」であった3500坪の土地をみつけた。1坪1円であったが、建物の費用を入れて総工費2万円余が必要であった。まだ金融機関が発達していないこの時代、縁あって前田家から借用することとなったが、この交渉は難渋した。前田家は、返済は望めないものと思っていたからである。ところが、二代目院長佐藤尚中は5年後の明治13年4月に、年3分の利子をつけて完済し前田家を驚かせた。本格的な私立病院、順天堂のはじまりである。

このころの順天堂は、ドイツから帰朝した佐藤進が先端医療で鳴らし、また明治10年の西南戦争で軍医として活躍したことから全国にその名を知らしめ、患者や塾生が各地から集まった。



順天堂大学医学部附属順天堂医院
〒113-8431 文京区本郷3-1-3
TEL: 03-3813-3111(代表)

編集 病院広報委員会
発行 医療連携室(平成24年7月発行)

ホームページ

<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

順天堂医院

検索

